

校報 淑徳与野 中学・高等学校

SHUKUTOKU YONO JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

学校法人 大乘淑徳学園

■発行：〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合5-19-18 TEL.048-840-1035
 ■編集：井ノ口 裕

第141号

発行年月日：2023.11.30



無印良品ポートランド支店を訪問[7組](上)



セントラル・ワシントンの絶景[4組](下)

長らく待ち望んでいたアメリカ修学旅行が四年ぶりに再開となり、私たち高校二学年はアメリカの魅力が詰まった都市、ポートランドとシアトルを巡る素晴らしい旅へ九月二十六日(火)(A,B班)および二十七日(水)(C,D班)に出発しました。

最初の目的地、ポートランドではダウンタウンを中心には散策し、都市でありながら緑豊かな街並みに日本との違いを見出し、買い物を通じて本

場の英会話にチャレンジしました。独自のアートシーンに魅了された生徒もいたり、アメリカの文化に触れるとても良い機会となりました。

修学旅行のメインプログラムである週末のホームステイでは、ホストファミリーは心温かく生徒たちを迎えてくれ、アメリカの日常生活を体験できるよう手配してくれました。

間は、アメリカ文化を体感する貴重な機会となり、国際交流の素晴らしさを実感させてくれました。

高二 アメリカ修学旅行

流の素晴らしさを実感させてくれました。

次の目的地、シアトルでは

メジャーリーグオールスター

戦が行われ、大谷選手も活躍

されたT-MOBILE球場

を訪れ、その後はバイクプレ

イスマーケットを中心に散策

しました。飛び交う魚や花束、

民芸品や絵画がマーケットを

彩り、地元の人や観光客など

ても活気に溢れていました。

多くの生徒がスタートバックス

一号店のオリジナルグッズを

手にするため、一時間の行列

を苦ともせぬ並んでいました。

散策を通じ、シアトル独自の

文化を楽しむことができました。

ホームステイ前

後で訪れたセントラル・オレゴン(A班)ワシントン



ホームステイ明け、別れの朝

淑与中だより



九月九日(土)、中学校の「なでしこ発表会」が行われました。今年は保護者の人數制限を廃し、予約制で受験生とそのご家族も招待しました。心配された台風も去り、当日は約二百組の保護者と一五〇組の受験生の皆さんが来校され、生徒たちの発表・展示をご覧いただきました。体育館では吹奏楽部をはじめ、演劇

部・バトン部などの演技、メディアステップや教室では書道部や美術部などの文化部、各学年の取り組みの展示発表が行われたほか、箏曲部や競技かるた部などの体験コーナーも新しく設けられました。初めての受験生対応では、丁寧に校内案内をする生徒や受験相談をする生徒たちに、受験生の保護者の方も満足された様子でした。自分たちが楽しこと「楽しませる」ことができた発表会、来年はもっと多くの方に見ていただけると期待しています。



中学一年生はキャリア教育の一環として、夏休み中から「職業インタビュー」を行いました。インタビュー先と連絡を取り合いながら、その方法(対面なのか、オンラインなのかなど)から内容まで、自分たちで考えながら進めていくことで、職業を理解するだけではなく、礼儀や計画性なども同時に育むことをねらいとしています。インタビュー当日は緊張していましたが、優しく導いていただいたことで、新たな学びを得て、充実した時間になりました。中二で行う職業体験のイメージ作りにもつながったと思います。夏休み明けの授業で、インタビュー内容をクラスで発表し、共有しました。

なでしこ発表会

中一 職業インタビュー

中三 大学見学



七月九日(日)、中高合同の東京大学キャンパスツアーを実施しました。はじめに大学職員の方からの案内を受け、その後、本校卒業生の木下青さんからお話を伺ったほか、所有する農場も訪問させていただきました。実際の大学の施設・設備を目にし、先輩の研究内容を知ることで、中学・高校とは異なる専門的な学びに触れることができ、参加生徒たちにとって非常に大きな刺激となりました。

contents

●剣道部 インターハイベスト8	2
●洗心真館 落慶式	2
●校長あいさつ	3
●PTAから学園へ寄附	3
●み魂まつり	3
●高校1年 進路ガイダンス	4
●高校2年 進路ガイダンス	5
●高校3年 進路ガイダンス	5
●第75回 文化祭 淑煌祭	6
●中2 台湾海外研修	6
●クラブ活動報告	7
●淑与中だより	8

文化を楽しむことができました。ホームステイ前後で訪れたセントラル・オレゴン(A班)ワシントン

文化を楽しむことができました。アメリカの文化や魅力に触れられる機会を得られたことにとても感謝しています。高校二学年にとって、忘されることのできない価値ある思い出を作ることができました。

剣道部は、八月四日(金)～六日(日)に北海道で行われたインターハイに出場しました。四日に行われた団体予選リーグを一位で勝ち上がり、六日に団体決勝トーナメントへと駒を進めました。決勝トーナメントの一回戦は延長戦までもつれ込みましたが、大将を務めた三好彩莉さん(高校三年七組)が戦いを制し、二回戦の準々決勝へと進みました。準々決勝では惜しくも敗れましたが、団体戦でインターハイベスト8という素晴らしい結果を残しました。また、三好さんは十名しか選ばれない優秀選手の一人に選ばされました。



九月十一日(月)、学園本部への表敬訪問が行われました。主将の森光夏希さん(高校三年十組)、同じく三年生の三好さん、顧問・監督を務める平井健輔先生が理事長・長谷川匡俊先生の元を訪れ、インターハイの結果を報告しました。



(左から平井先生、三好さん、長谷川理事長、森光さん、菊地常務理事)

七月二十六日(水)、洗心真館の落慶式が挙行されました。理事長の長谷川匡俊先生の式辞に始まり、来賓の方々の祝辞、テープカット、施設見学が行われました。

洗心真館は、円阿弥グラウンドの敷地内に建てられた二階建ての建物で、一階に更衣室やシャワー室、二階に剣道場と和室が備えられています。剣道部の稽古だけでなく、グラウンドを使用するサッカー部やソフトボール部などの休憩場所として、そしてグラウンドでスポーツ大会などの行事を行う際の着替え・待機場所として使用できます。



洗心真館の一階には、本校の同窓会であるなでしこ会の部屋が設けられました。本校の卒業生で構成されるなでしこ会は、総会や懇親会などを定期的に開催し活動しています。同窓会室が設けられたことで、洗心真館は在学中だけでなく、卒業してからも学校とのつながりを持ち続けられる施設となりました。



国際教育の再開に臨んで 校長 里見裕輔

岩倉使節団が当時の先進国であるアメリカやイギリス、あるいはドイツなど、欧米諸国の視察に出発したのは明治四年十一月のことでした。

一行は太平洋の波濤を越えて、まずアメリカのサンフランシスコにその第一歩を記します。そして明治六年九月、実に一年九ヶ月を経てやっと日本に帰ってきたといいますから、なんとも壮大な企画ではありますせんか。

しかもその使節団たるや、全権大使の岩倉具視をはじめ木戸孝允、大久保利通や伊藤博文など、誕生間もない明治政府の要職を中心には、政府関係者や留学生およそ百余名という、まさにその規模の大きさに驚かされます。

まるで遣唐使の近代版を見る思いです。

明治新政府が、先進諸国から学ぶことにいかに貪欲であったか。また、新生日本の建設に際しどれほど情熱と責任をもつていたか、彼等の気概がひしひしと伝わってきます。

ところで皆さんは『天平の甍』という井上靖氏の小説をご存知ですか。そのなかに

こんな一節があります。

「なに、これしき大丈夫だ。もう少しの辛抱だ。これで船が難破さえしなければ唐土へ着けるのだ。噂にきいている長安の都も、洛陽の都も見られる。そこを歩き、そこでものを考えることができる。(略) 知るべきことはいっぱいある。読まなければならないことも山程ある。(略) もう少しの辛抱だ――」

いよいよ平城京が花開こうとする奈良朝の初期もまた、新しい国造りの気概に燃える多くの日本の若者が、危険を顧みず、当時の先進国である中国の唐に渡りました。上記の文章は、唐に向かう船中の留学僧・玄朗の台詞ですが、この彼と同じ気概を、おそらく岩倉使節団の誰もが胸に抱いていたことでしょう。まさに青春といおうか、人間ながら国家にもその歴史のなかに躍動感あふれる青年時代というものがあるようです。

翻つて現代の日本はどうだろう…。

それはともあれ、コロナ禍で本校の国際教育はこの間、そのほとんどの企画が中断

されましたが、このたび、高校二年生のアメリカ修学旅行、中学二年生の台湾研修をまず再開しました。体験を通して異文化に触れ、視野を世界に向けてほし

いと思います。

み魂まつり

九月二十日(水)、板橋区にある学校法人大乗淑徳学園本部にて、淑徳与野中学校・高等学校PTAより学園に百万円の寄附金を贈る、贈呈式が行われました。現会長を務める塚原直子様、前会長の塚原端秀美様が本部を訪られ、学園側の代表である長谷川匡俊理事長に寄附金の目録を手渡しました。



PTAから学園へ寄附



今年度のみ魂まつりは、七月十一日(火)に、川口総合文化センター LILI Aメインホールで、中学・高校全生徒が参加し行われました。今回は希望する保護者の方も参加し、第一部が法要、第二部が法楽という構成で行われ、法要は厳肅な雰囲気の中、今夏に新盆を迎えた故人の回向と献花が行われました。

第一部の法楽では、津軽三味線奏者の岡田修氏によ

る演奏が行われました。伝統的な曲だけでなく、岡田氏オリジナルの曲も演奏され、参加した生徒と保護者の方々は、津軽三味線の力強い演奏に聞き入っていました。

六月二十四日(土)、二十五日(日)と二日間にわたり、第七十五回淑煌祭が行われました。数年間続いたコロナ禍の様々な心配からようやく解放され、待ちに待つた「一般公開」と「食品を扱う催し物」が解禁となりました。この知らせを聞いたとき、どの生徒も本当に

うれしそうに目を輝かせました。そのままの勢いで、各クラス、クラブ、委員会が最高のパフォーマンスを披露し、長期に渡りこの晴れの舞台の準備をしてきた淑煌祭実行委員との各係員が、活気溢れる中にも秩序を保つた二日間の運営を成し遂げました。二日間で約五千名の来場者がありました。

今年度のテーマはΣ(シグマ)、数学の記号で、条件を満たす数の総和を、



意味する省略記号です。その意味通りに生徒一人一人の力を合わせ、また保護者、後援会の皆様のご協力とともに大きな力となり、素晴らしい文化祭を作り上げることができました。

最後に、今回も「JHP学校をつくる会」を通して、販売の利益をカンボジアのチッタイ中学校(淑徳与野なでしこスクール)へ寄付いたしましたことをご報告いたします。

(金)、中二台湾海外研修が実施されました。コロナ禍を経て、実に四年ぶりの実施となりました。



台湾ならではの風景や空気が広がる九份、台湾での仏教山佛陀紀念館、歴代宮廷が所有した至宝などが展示されている故宮博物院などを訪りました。

姉妹校訪問では、静修高級中学を訪れました。校門に入った途端、大歓声とともに熱烈な歓迎を受けました。交歓会に続いて、生徒は静修の生徒とペアを組み、校内案内を受けながら交流を深めました。

同年代との交流は、生徒たちにとっても大きな刺激と貴重な経験となつたようです。静修の生徒や先生方が、四年ぶりとなる姉妹校交流が再開されたことを大変喜んでくださっていました。これがとても印象的でした。

今回の研修では日本とは異なる文化に触れたり、現地の人との出会いに異文化理解を深める機会となりました。ぜひこの経験を今後に活かしていきたいと思います。



高校バトン部 新人戦第2位

高校バトン部は、8月19日(土)に行われたUSA Japan チアリーディング&ダンス学生新人大会2023 EASTに出場し、高校編成Song/Pom部門smallにて第2位を獲得しました。

また、10月21日(土)に行われたALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 全日本チアダンス選手権大会に出場し、Aチームは高校編成Pom部門smallで第4位を、Bチームは高校編成Pom部門largeで第5位をそれぞれ獲得し、両チームとも全国大会出場を決めました。



中学バトン部 新人戦第1位、特別賞

中学バトン部は、8月20日(日)に行われたUSA Japanチアリーディング&ダンス学生新人大会2023 EASTに出場し、Aチームは中学校編成Song/Pom部門Intermediate Smallにて第1位、Bチームは同部門にて特別賞を受賞しました。



高校テニス部 県大会出場、3部リーグへ昇格

高校テニス部は、8月中旬から9月中旬にかけて行われた新人大会南部地区予選に出場しました。シングルスで齋藤輝莉さん(高校2年5組)、田中佑奈さん(高校2年7組)、真田有理さん(高校1年2組)が、ダブルスで齋藤輝莉さん・田中佑奈さんペアと、柿本真依さん(高校2年5組)・真田有理ペアが勝ち進み、県大会出場を決めました。また、団体戦で4部リーグトーナメントを勝ち上がり、入れ替え戦に勝利し、3部リーグへと昇格しました。



競技かるた部 埼玉県百人一首大会優勝

競技かるた部は、9月23日(土)に行われた埼玉県芸術文化祭2023第30回埼玉県百人一首大会に出場しました。結果、E級レベルにおいて長谷川喬世さん(高校2年2組)が並み居る強豪を抑えて、見事に優勝を果たしました。



高校陸上部 県大会出場

高校陸上競技部は、9月7日(木)、12日(火)に上尾運動公園陸上競技場にて行われた埼玉県新人陸上競技大会南部地区予選会に出場しました。黒羽由夏さん(高校2年4組)が100mH、水野さくらさん(高校2年4組)が100mHと400mHにおいて優秀な成績を収め、県民総体兼新人陸上競技大会への出場権を獲得しました。



左 水野さん 右 黒羽さん

十一月十四日(火)～十七日

(金)、中二台湾海外研修が実

施されました。コロナ禍を経て、実に四年ぶりの実施とな